

座談会では、当日、各チームの代表が1名ずつ登壇しました。司会をつとめてくれたPalletの橋本さん、JCDキャットの白石さんも最初は緊張した面持ちでしたが、各チームの代表のてきぱきとした回答で緊張の糸もほぐれ和気あいあいとした雰囲気での座談会になりました。

座談会では、大きく3つの質問が投げかけられ、各チームからなるほどといった回答やユニークな回答が出てきました。

Q1 「ワクワク学び隊」をやってみようと思ったきっかけってなんですか？

- ・ 将来教員を目指していたこともあり、「子どもとのつながり」を求めて。
- ・ ボランティアなどを紹介してくれる修道大学のピア・カウンターから話があって興味をもてたので。
- ・ ヒップホップダンスを多くの子どもに体験してほしいという思いから。
- ・ 子どもたちに料理の楽しさを伝えたいから。
- ・ 子どもたちに塗り絵の楽しさを伝えたり、自分で絵を描くことの楽しさをわかってもらいたいため。 等

Q2 「ワクワク学び隊」として活動する前の準備や、実際に「ワクワク学び隊」をやってみて「悩んだこと、苦労したこと」ってどんなことがありますか。

- ・ どんな遊びが面白いと思ってもらえるか、良いものを作り上げるにはたくさんの時間が必要だと改めて感じ、「事前の準備の大切さ」を知りました。
- ・ 児童の幅広い「年齢の違い」への考慮不足から思った以上に時間がかかり、楽しさよりも大変さを感じさせてしまった活動になった。
- ・ 難しい「言葉づかい」が多いため、意味を変えることなく簡単な言葉で言い換えるのに苦労をした。
- ・ 紙芝居をする上で、自分たちの声だけで臨場感を演出することはまだ経験がなく、不安がいっぱいだった。
- ・ 大学生の僕たちがすごく面白いと思って選んだ実験であっても、それが必ずしも子どもたちにとっては楽しい実験ではなかったことや、子どもたちがどのようなことに興味を抱きやすいかを考えながら実験を探すのが大変だった。
- ・ 披露できる題材が少なく、難しい内容の題材を披露しなくてはいけないことがあり、子どもたちに伝えたいことが伝わっているのかといつも思う。 等

Q3 「ワクワク学び隊」をやってみてやりがいてなんですか？

- ・ 子どもたちの「笑顔」をみたときは、やってよかったなと思う。
- ・ 楽しかったよと笑顔で子どもから言ってもらえることが、私たちにとって何よりもやって良かったと感じられるときだから。
- ・ 活動後に子どもたちの感想等で、「声がきれいだった」「もっとやりたくなった」などの感想を聞くと私達のモチベーションも上がるし、やってよかったと心から感じる事ができる。 等